

大阪府中央卸売市場

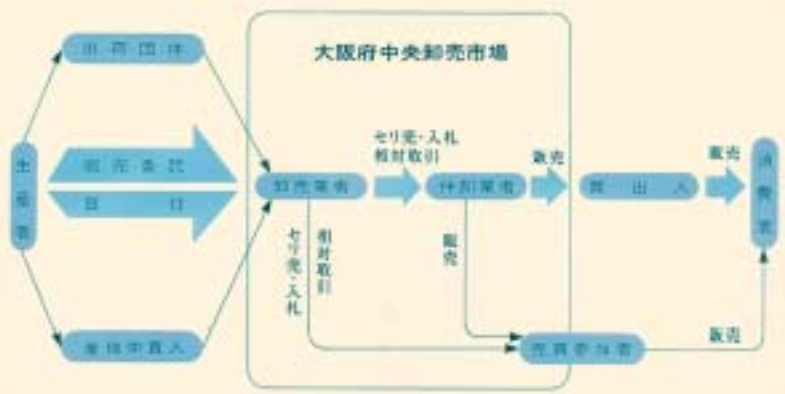
茨木市内を流れる安威川の右岸、茨木市宮島に大阪府中央卸売市場しじょうがあります。この市場は、私たちの日常生活に欠かすことができない生鮮食料品を取り扱い、北大阪地域の台所を支えています。

『まなびどり』編集ボランティアはこの市場を訪ね、開設の趣旨や概要などを聞きました。

開設の経緯など

大阪府では、昭和53年（1978年）5月に、消費人口の増加や自動車輸送の急増など、生鮮食料品流通を取り巻く環境や情勢の変化に対応し、効率的な集分荷活動と適正な価格形成を行う必要性から、現所在地に中央卸売市場を開設しました。茨木市に開設されたのは、都市化の進展と人口増加が著しい北大阪地域のほぼ中央に位置し、交通の要衝にあったからです。

敷地面積は約20万㎡（甲子園球場の約5倍）で、約3,000人が働き、隣接する加工食品卸売場と一体となって総合食品供給基地の役割を果たしています。



取扱品目など

1年間の取扱量、取扱金額は、平成16年（2004年）の統計によると、青果（野菜、果実）が25.9万トンで、585億円、水産物（生鮮、冷凍、加工）は7.5万トンで、587億円になっています。

野菜の取扱品目で数量が多いのは、キャベツ、ダイコン、ハクサイの順に、果実では、ミカン、青バナナ、スイカの順になっています。

また青果の取扱数量が多い産地は、野菜では、北海道、長野、徳島の順で、果実では、和歌山、フィリピン、アメリカの順になっています。【平成15年（2003年）】



大阪府中央卸売市場

せり売り

野菜や魚などの生鮮食料品は、トラックによって中央卸売市場へ運ばれてきます。集められた食品は、せり売りなどで値段をつけます。せり売りとは、売り主が2人以上の買い手にその価格のせり合いをさせ、最高値をつけた人に売るといったものです。野菜、果実、生鮮水産物、加工水産物によってせり売りの時間帯が違います。私たちが見学をした時は、ちょうどサツマイモやジャガイモ、ゴボウなどがせり売りの最中でした。年間約280日行われています。



せり売り

ごみの減量・リサイクルなど

市場では、環境への配慮としてさまざまな取り組みがなされています。

水産物などの入れ物として使われている発泡スチロールは、処理して再資源化されます。また水産物や野菜などの生ごみは、高速減容化処理施設で約1/10の容量にしています。現在、これを肥料にする研究をしています。荷役用車両のターレットは、排気ガスを出さないようにほとんど電気で動くようになっています。

大阪府中央卸売市場

〒567-0853 茨木市宮島一丁目1番1号
636-2011(代)

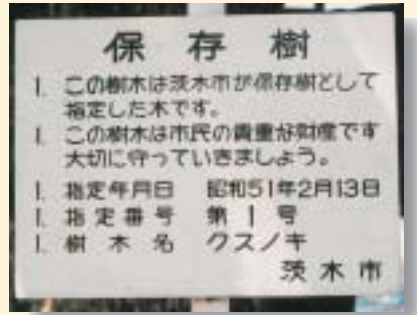
担当：小山 宮崎

茨木市の

指定保存樹木を訪ねて

茨木市には、神社仏閣などを中心に27カ所、合計49本の指定保存樹木があり、市民の貴重な財産として大切にされています。古いものでは平安時代後期からで、今日までの長い間、茨木市の移り変わりを黙って見つめ続けた歴史の証言者です。

『まなびどり』編集ボランティアは、その中から5本の保存樹木を訪ねてみました。皆さんも悠久の歴史に思いをはせながら、一度見てみませんか。



①須賀神社のクスノキ

- ①クスノキ
●須賀神社
●鮎川二丁目
●指定番号 第15号
大阪府指定文化財（天然記念物）
●指定樹齢 910年
●樹高 26.3m
●幹の周囲 6.1m

枝の張りが約25mもあり、茨木市で有数の堂々たる巨木。



②岩作大明神のムクノキ

- ②ムクノキ
●岩作大明神
●安威一丁目
●指定番号 第44号
●指定樹齢 410年
●樹高 18.2m
●幹の周囲 6.37m

11月には「たるま講」がある。



③太田不動尊のエノキ

- ③エノキ
●太田不動尊
●太田二丁目
●指定番号 第3号
●指定樹齢 160年
●樹高 9.3m
●幹の周囲 2.69m

太田不動尊は西国街道、太田橋の近くにある。

- ④アベマキ
●春日神社
●春日五丁目
●指定番号 第5号
●指定樹齢 80年
●樹高 16.8m
●幹の周囲 1.64m

神社内には、国の重要文化財「石燈籠」がある。



④春日神社のアベマキ



⑤伯光神社のクスノキ

- ⑤クスノキ
●伯光神社
●水尾三丁目
●指定番号 第1号
●指定樹齢 210年
●樹高 17.6m
●幹の周囲 5.21m

わらで作った籠をこの木に登らせ、雨乞いをしたという言い伝えがある。

担当：野間 宮崎